

京都府立医科大学附属病院認知症疾患医療センターの取組

○基幹型認知症疾患医療センターとして京都府と協力して認知症施策を推進するとともに、地域で多職種連携につながる研修会等を開催

【担当圏域の基礎情報】（令和3年3月31日時点）

	京都府(京都市含む)	京都・乙訓医療圏
人口	2,522,613人	1,551,848人
高齢者人口(高齢化率)	740,393人(29.4%)	437,639人(28.2%)
市町村数	26	4
認知症疾患医療センター数	9	3

【認知症疾患医療センターの概要】（令和3年度実績）

類型	基幹型
医療機関種別(設置主体)	一般病院(都道府県)
専門医療相談件数	1,391件
主な相談者(割合上位3位)	家族・介護者(75%)、本人(15%)、医療機関(7%)
鑑別診断件数	68件
診断時の認知症重症度(CDR)(割合上位3位)	なし(21%)、軽度認知症(29%)、認知症の疑い(28%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・年2回、府との共催により、府内のセンター及び保健医療関係者と開催。
（③テーマ：地域包括支援センターからの相談・対応状況、認知症のご本人へのアプローチ他）

<研修会の実施>

- ・他人事だった私の親が認知症になりました それぞれの目線で本音が飛び交う場所

<その他（講師派遣・市町村支援等）>

- ・認知症対応力向上研修
- ・病院認知症対応力向上事業検討委員会
- ・若年性認知症自立支援ネットワーク会議
- ・病院医療従事者認知症対応力向上研修
- ・認知症の人の意思決定支援研修
- ・認知症初期集中支援チーム連絡会・スキルアップ研修
- ・DLBサポートネットワークの本人・家族ミーティング（支援医）
- ・認知症の人と家族の会（アドバイザー）
- ・北区・上京区認知症サポートネットワーク（構成員） 他

【取組① 認知症疾患医療センター研修セミナーの開催】

- 2012年度から、年に1回、認知症疾患医療センター行動アセスメント研修セミナーを主催。
- 医師、看護師、作業療法士、心理士等に講師を依頼。様々な視点からその時々合ったテーマで講演を行うことにより、多職種に参加につながり、地域での生活をサポートするための人材育成につながっている。
- 医師、心理士、ケアマネジャー、その他認知症ケアに関わっている方を対象。参加者は80名前後。
- 2020年度・2021年度は開催中止
- 2022年度はオンラインで開催予定



【取組② 認知症初期集中支援チームへの協力】

- 2017年度から、京都府内の認知症初期集中支援チームの運営状況、問題点、工夫点を把握し、基幹型センターとしてサポートするため、精神保健福祉士がチーム員会議、検討委員会の視察を行っている。検討委員会では、問題点を解決できるよう他チームの工夫点の提案や助言を行っている。（現在は新型コロナウイルスのため休止）
- 認知症初期集中支援チーム連絡会に参加し、チームの状況把握やチーム員との交流をおこなっている。
- 京都府主催の認知症初期集中支援チーム員養成研修に講師として参加している。

【取組③ 軽度行動障害に関する啓発活動】

- 軽度行動障害(Mild Behavioral Impairment; MBI)は、認知症にはなっていないが、50歳以降から始まる行動または性格の変化を認め、少なくとも6か月以上持続する場合に診断がつけられ、MBIがあると認知症になりやすいと考えられている。
- 2021年度から、左京区認知症初期集中支援チームと連携をとり、MBIに関する研究を行っている。その一環として、MBIの啓発活動を行っている。

西山病院認知症疾患医療センターの取組

○地域の専門医療機関として認知症初期集中支援チームに協力するとともに、初期認知症の方や家族への支援や行政と協力した住民向け啓発活動も実施。

【担当圏域の基礎情報】（令和3年3月31日時点）

	京都府(京都市含む)	京都・乙訓医療圏
人口	2,522,613人	1,551,848人
高齢者人口(高齢化率)	740,393人(29.4%)	437,639人(28.2%)
市町村数	26	4
認知症疾患医療センター数	9	3

【認知症疾患医療センターの概要】（令和3年度実績）

類型	地域型
医療機関種別(設置主体)	精神科病院(個人)
専門医療相談件数	628件
主な相談者(割合上位3位)	家族・介護者(33%)、医療機関(32%)、介護保険サービス事業所(22%)
鑑別診断件数	116件
診断時の認知症重症度(CDR)(割合上位3位)	軽度認知症(38%)、なし(25%)、中等度認知症(23%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・医師会、管内市町、介護医療関係者と開催
センターの実績報告、各市町の認知症初期中支援チーム活動報告
コロナ禍における各機関の対応方法の共有

<講師派遣・市町村支援等>

- ・長岡京市認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加12回）
- ・向日市認知症初期集中支援チーム 検討委員会（後方支援として出席）

<普及啓発の取り組み>

- ・各種研修会等で当院リーフレットを配布
- ・当院ホームページにて認知症外来の案内
- ・認知症外来受診者へ社会資源の情報提供及び必要に応じて包括へ情報提供

【取組① 乙訓地域認知症疾患医療連携協議会】

11月 医師会、管内市町や保健医関係者と開催
(感染状況を踏まえ、書面開催としました)

- 認知症疾患医療センターの実績報告
- 認知症初期集中支援チーム活動報告
- 認知症カフェの活動報告
- コロナ禍における認知症の方の対応についての課題、工夫していることを共有しました

【取組② 認知症初期集中支援チームへの協力と参加】

- 向日市認知症初期集中支援チームへの協力
市域における課題の把握や支援体制のあり方などの検討会に出席しました。
- 長岡京市認知症初期集中支援チームへの参加
月1回開催されるチーム員会議にチーム員として、支援方針、対応方法などの検討に参加しています。

新型コロナウイルスにおける感染予防の為、各会議について書面開催やZoom等を活用し、開催しました。

- 乙訓地域認知症疾患医療連携協議会の開催
対面での開催を検討しておりましたが、感染状況を踏まえ、書面開催としました。
- 認知症家族交流会
小人数の地域の介護者サロンに参加させていただきました。
- 認知症初期集中チーム会議の開催
感染状況により、書面会議やZoom等を活用し、開催しました。
- 西山病院家族教室
開催に向けて検討しましたが、ご出席される年齢層を考慮するとオンラインは難しいため、中止という形になりました。

京都府立洛南病院認知症疾患医療センターの取組

○認知症当事者の伴奏者として、地域住民とともに認知症にやさしいまちを考える。

【担当圏域の基礎情報】（令和3年3月31日時点）

	京都府(京都市含む)	山城北医療圏
人口	2,522,613人	432,428人
高齢者人口(高齢化率)	740,393人(29.4%)	129,916人(30.0%)
市町村数	26	7
認知症疾患医療センター数	9	2

【認知症疾患医療センターの概要】（令和3年度実績）

類型	地域型
医療機関種別(設置主体)	精神科病院(都道府県)
専門医療相談件数	2,798件
主な相談者(割合上位3位)	家族・介護者(34%)、介護保険サービス事業所(31%)、医療機関(20%)
鑑別診断件数	167件
診断時の認知症重症度(CDR)(割合上位3位)	認知症の疑い(30%)、重度認知症(25%)、 軽度認知症、中等度認知症(22%)、

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・年3回主催で開催。（テーマ：認知症疾患医療センター実績報告、市町村の取組状況共有他）

<研修会の実施>

- ・宇治市認知症ケアネットワーク（3回）
- ・洛南病院認知症本人・家族教室（10回）

<その他（講師派遣・市町村支援等）>

- ・れもねいど推進協議会（4回）
- ・宇治市認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加24回、検討会3回）
- ・城陽市事例検討会（3回）
- ・城陽市認知症サポーターステップアップ研修
- ・若年性認知症支援プログラムの実施
- ・京都文教大学「地域志向教育研究 ともいき研究」に参加
（当事者・家族、学生、宇治市、関係機関等と合同でグループミーティングの開催）

【取組① 洛南病院認知症本人・家族教室の開催】

- ・認知症とともに住み慣れた場所で安心して暮らせるよう、本人・家族に情報を提供する目的でR2年度から開催している。（R3年度は10回開催）
- ・本来は、周囲から孤立・孤独に陥っていきがちな本人・家族の交流の場を提供する目的の場としても開催する予定だったが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、R3年度は1回の開催につき、本人1人とその家族のみを対象として開催し、必要に応じての随時開催とした。
- ・毎回医師、看護師、精神保健福祉士が参加し、京都府作成のスライドを使用して講義を行った。一方的な講義ではなく、本人・家族と対話しながら講義をすすめ、専門職とじっくり相談をしていただく機会を持つことができた。

【取組② 宇治市認知症ケアネットワークの開催】

- ・H24年度から管内の地域包括支援センター、行政機関、医療機関、家族会等を対象に認知症に対するアセスメント力や対応力の向上を目的として事例検討会を開催している。（R3年度は3回開催）
- ・H23年度に宇治市・宇治久世医師会と作成したツール「物忘れ連絡シート」や「KN式認知症ケアパス情報共有シート」を活用して検討している。
- ・地域包括支援センターから提供された事例をもとに参加者全員で検討して医師からの助言を得る作業の蓄積が、地域包括支援センターが独自で判断できる力を向上させている。

【取組③ 認知症初期集中支援チームへの協力】

- ・H25年度から宇治市の認知症初期集中支援チーム（地域包括支援センターに設置）に認知症疾患医療センターの医師（サポート医）と精神保健福祉士がチーム員として参画し、専門的見地から助言等を行い、必要に応じて診断・治療も行っている。（R3年度は初期集中支援チーム員会議24回、初期集中支援チーム検討委員会3回開催）

宇治おうばく病院認知症疾患医療センターの取組

○研修会の開催、地域の会議への積極的な参加により地域連携を推進するとともに、精神科病院として身体管理が必要な患者の対応ができる体制を構築。

【担当圏域の基礎情報】（令和3年3月31日時点）

	京都府(京都市含む)	山城北医療圏
人口	2,522,613人	432,428人
高齢者人口(高齢化率)	740,393人(29.4%)	129,916人(30.0%)
市町村数	26	7
認知症疾患医療センター数	9	2

【認知症疾患医療センターの概要】（令和3年度実績）

類型	地域型
医療機関種別(設置主体)	精神科病院(医療法人)
専門医療相談件数	1,095件
主な相談者(割合上位3位)	家族・介護者(54%)、医療機関(25%)、介護保険サービス事業所(12%)
鑑別診断件数	136件
診断時の認知症重症度(CDR)(割合上位3位)	中等認知症(34%)、なし(21%)、重度認知症(18%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・年2回程度主催で開催。（③テーマ：認知症疾患医療センターの運営状況、各行政区の取り組み等）

<研修会の実施> 感染対策のため実施できず

- ・認知症疾患医療センター主催研修

<その他（講師派遣・市町村支援等）>

- ・認知症フォーラムin宇治
- ・れもねいど推進協議会
- ・宇治市認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加 12回、検討会 3回）
- ・京田辺市認知症初期集中支援チーム（検討会 1回）
- ・井手町認知症初期集中支援チーム（検討会 1回）
- ・宇治田原町認知症初期集中支援チーム（検討会 1回）
- ・病院機関誌により認知症ケアのあり方を普及 他

【取組① 顔の見える関係づくり】

- ・認知症疾患医療連携協議会を年2回開催しており、担当圏域の行政機関、地域包括支援センター、医師会、認知症の人と家族の会、連携病院の方たちにご参加いただき、各機関の情報を共有し意見交換を重ねている。それにより、横の繋がりが強化され、圏域内での相互のやり取りも生まれてきている。
- ・地域の介護施設や介護保険事業所などの要請に応じて講師派遣をしている。また、意見交換や事例検討会などにも積極的に参加することで、医療と介護の連携が進むよう取り組んできている。



認知症疾患医療連携協議会の様子

【取組② 一般病院・かかりつけ医との連携】

- ・当院には内科常勤医が複数名勤務している。さらに、専門病棟である「認知症治療病棟」を有し、認知症の症状に応じた専門治療も行っている。そのため、一般病院で対応困難とされる身体管理が必要な認知症患者の転院を受け入れることができている。
- ・地域のサポート医やかかりつけ医との日常的な関係作りを意識し、診療情報提供書のやり取りだけでなく、定期的に足を運ぶようにもしている。
- ・一般救急病院との連携に病院として取り組んでおり、日常的に一般救急病院との顔の見える関係作りを行っている。

【取組③ 認知症初期集中支援チームへの協力等】

- ・宇治市では8か所ある地域包括支援センターのうち2か所に認知症コーディネーターを配置し、認知症初期集中支援チームを実施している。平成25年の認知症初期集中支援チーム発足当初から、当院認知症疾患医療センターの医師とPSWがチーム員として参画している。
- ・担当圏域において年1～2回開催される運営委員会に参加し、ケースの実際の動きを共有している。その際、チームのあり方や対応などについて、専門的な立場からの助言を行っている。

京都山城総合医療センター認知症疾患医療センターの取組

○認知症対応力向上のための研修会の開催や認知症カフェへの協力を通じて地域と連携するとともに、認知症家族教室を開催。

【担当圏域の基礎情報】（令和3年3月31日時点）

	京都府(京都市含む)	山城南医療圏
人口	2,522,613人	123,936人
高齢者人口(高齢化率)	740,393人(29.4%)	32,508人(26.2%)
市町村数	26	5
認知症疾患医療センター数	9	1

【認知症疾患医療センターの概要】（令和3年度実績）

類型	地域型
医療機関種別(設置主体)	一般病院(市区町村)
専門医療相談件数	244件
主な相談者(割合上位3位)	家族・介護者(76%)、本人(11%)、介護保険サービス事業所(6%)
鑑別診断件数	171件
診断時の認知症重症度(CDR)(割合上位3位)	軽度認知症(61%)、認知症の疑い(26%)、中等度認知症(9%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・年1回程度主催で開催
(③テーマ：コロナ禍の認知症支援における課題について)

<研修会の実施>

- ・認知症対応力向上研修会
(認知症困難事例に対する支援・解決方法を検討する事例検討会)

<その他(講師派遣・市町村支援等)>

- ・木津川市認知症カフェ(3回)
- ・木津川市認知症初期集中支援チーム(チーム員として参加12回、検討会1回)(平成29年度から)
- ・精華町認知症初期集中支援チーム(チーム員として参加12回、検討会1回)(平成26年度から)
- ・相楽東部地域認知症初期集中支援チーム(チーム員として参加1回、検討会1回)(平成30年度から)

【取組① 地域の関係機関と顔の見える関係作りの構築】

- 当院で認知症の鑑別診断を受けられた患者様のうち、関係機関との連携が必要な場合には、患者様、及びご家族に了解の上、速やかに地域包括支援センターなどの関係機関に連絡し、連携を図っています。
- 年1回、認知症疾患医療連携協議会を開催し、地域課題などについて意見交換を行っています。コロナ禍でもオンラインを活用して関係作りを継続しています。



- 山城南圏域の認知症対応力向上を目的として、認知症に関する研修会を積極的に開催しています。
- 市町村（木津川市、精華町、相楽東部）の認知症初期集中支援チーム員会議にチーム員として参加し、地域課題の把握に努めています。
- 地域の認知症カフェにも積極的に協力し、講師派遣の他、認知症相談にも応じています。



【取組② 家族支援】

- 認知症の患者様とご家族の支援を目的にした認知症家族教室ですが、コロナ禍のため令和3年度も休止しました。今後は、オンラインを活用した家族教室の再開を予定しています。
- 木津川市住民を対象とした「介護者の集い」に講師派遣（公認心理師）をしました。

【取組③ 入院中の認知症患者さんの支援】

- 認知症サポートチーム（認知症看護認定看護師・医師・作業療法士、公認心理師、精神保健福祉士）が、週2回程度、病棟をラウンドし、認知症患者さんの支援について病棟看護師と意見交換を行っています。

京都中部総合医療センター認知症疾患医療センターの取組

○地域医療を担う総合病院として、院内連携を促進する研修会を開催するとともに、高齢入院患者の現状を多職種によりチェックしている

【担当圏域の基礎情報】（令和3年3月31日時点）

	京都府(京都市含む)	南丹医療圏
人口	2,522,613人	132,095人
高齢者人口(高齢化率)	740,393人(29.4%)	43,625人(33.0%)
市町村数	26	3
認知症疾患医療センター数	9	1

【認知症疾患医療センターの概要】（令和3年度実績）

類型	地域型
医療機関種別(設置主体)	一般病院(市区町村)
専門医療相談件数	218件
主な相談者(割合上位3位)	家族・介護者(42%)、医療機関(29%)、本人(14%)
鑑別診断件数	115件
診断時の認知症重症度(CDR)(割合上位3位)	軽度認知症(55%)、認知症の疑い(24%)、なし、中等度認知症(10%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・年1回程度、センター主催で開催。（認知症疾患医療センター実績 他）
- ・コロナ問題が落ち着けば、高齢者福祉関係機関等にも参加いただき交流を図りたい

<研修会の実施>

- ・せん妄についての職員研修 約20名参加
- ・診療所の医師、地域包括支援センター職員を対象にしたWeb研修会の開催
- ・デイサービス等、介護保険サービスを提供中の現場職員を対象にした研修

<その他（講師派遣・市町村支援等）>

- ・亀岡市、南丹市認知症初期集中支援チーム（チーム員として参加）
- ・認知症疾患医療センターリーフレットやホームページで認知症の啓発を実施

【取組① 亀岡市、南丹市初期集中支援チームへの参画】

チーム員としてセンター長が参画し、当院を会場にWEB会議を開催している。支援対象者の状況と支援経過の報告、多職種による意見交換を行い、支援方針を検討し認知症高齢者の地域生活を支援している。その他の地域についても要請があれば協力させていただきたい。

【取組② 認知症患者家族交流会】

平成30年度に初めて交流会を開催した。本来、家族間の交流を図ることにより、介護で頑張っている多くの人がいることを知ってもらい、介護上の悩みについても情報交換ができればと考えているが、3年度は開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症の問題から実施できなかった。今後は、外部会場も視野に入れて開催を検討したい。

また、地域で行われる交流会に、ご要望があればセンターから講師などでも参加させていただけますのでご連絡ください。

【取組③ 多職種研修と院内リエゾン】

当院は精神科病床のない総合病院である。認知機能の低下した高齢者の入院に伴う、せん妄等に対応するため、精神科と共同で医師、認定看護師、公認心理士、作業療法士等の多職種による巡回を開催し、病棟と連携して、せん妄予防、早期発見及びその治療に対応している。

また院内の看護師を対象に、新規入院患者に多いせん妄について研修会を開催するとともに、地域の診療所医師を対象にした認知症に関するWeb研修を実施、これからも積極的な参加をいただけるよう広報してゆく。

舞鶴医療センター認知症疾患医療センターの取組

○住民向けに公開講座を開催し認知症啓発を行うとともに、専門職向けに実務担当者会議や勉強会の開催に協力し、地域の認知症対応力向上を図っている。

【担当圏域の基礎情報】（令和3年3月31日時点）

	京都府(京都市含む)	中丹医療圏
人口	2,522,613人	188,906人
高齢者人口(高齢化率)	740,393人(29.4%)	61,121人(32.4%)
市町村数	26	3
認知症疾患医療センター数	9	1

【認知症疾患医療センターの概要】（令和3年度実績）

類型	地域型
医療機関種別(設置主体)	一般病院(国)
専門医療相談件数	1,810件
主な相談者(割合上位3位)	家族・介護者(37%)、本人(30%)、介護保険サービス事業所(22%)
鑑別診断件数	67件
診断時の認知症重症度(CDR)(割合上位3位)	認知症の疑い(25%)、軽度認知症(34%)、中等度認知症(12%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】＜協議会の開催＞

- ・年1回程度主催で開催。（③テーマ：各機関の活動報告、事業計画紹介）

＜その他（講師派遣・市町村支援等）＞

- ・舞鶴市認知症初期集中支援チーム会議（チーム員として参加 10回）
- ・舞鶴市医療連携実務者担当者会議への参加（5回）
事例検討会でのケース紹介、もの忘れ外来の受診状況報告
- ・綾部市認知症初期集中支援チーム会議への参加（1回）
- ・綾部市認知症地域支援推進検討会への参加（1回）
- ・管内自治体の認知症支援ガイドブック作成協力と配布
- ・認知症疾患医療センター紹介パンフレットの配布
- ・認知症本人・家族教室実施に向けての情報共有と運営協力
舞鶴市医療連携実務担当者会議での取組報告
- ・管内認知症カフェの広報協力
- ・福知山市の認知症施策についての現状と課題を情報共有、他市の取り組み紹介

※公開講座・研修会は新型コロナウイルス感染拡大を受け中止

【取組① 本人家族教室・関係機関向け研修会の実施】

- 令和3年度より認知症疾患医療センター主催で認知症本人家族教室を開催している。軽度認知障害（MCI）または認知症（軽度）と診断された方およびその家族を対象に、必要な情報と交流できる場を提供することを目的にしている。本人と家族が自身の体験を話すことによって気持ちを共有したり、相談窓口や地域のサービスについて新たな情報を得る機会となっている。
- 認知症疾患医療センター主催で、地域の介護・福祉・医療関係者向けの研修会を実施している。日頃の業務に役立つよう、基礎知識を振り返ったり、新たな知識を学習できる場となるよう、講演やグループワークなどを計画している。グループワークでは、普段は交流することの少ない様々な職種の人との意見交換の場となっている。令和元年度以降も開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け中止とした。令和4年度はオンライン形式等での実施を計画している。

本人家族教室



【取組② 早期診断・早期治療のための取組】

- 地域医療機関や地域包括支援センター等から寄せられる受診相談に対応し、鑑別診断へつなげている。地域生活を支援する相談窓口について情報提供するなど、診断後も継続した支援を受けられるよう、機関と連携している。
- 認知症に伴う行動・心理症状（BPSD）治療や薬剤調整、生活リズム調整などを目的に、必要に応じ短期間の入院治療を行っている。退院後の生活を見据え、入院中より家族、ケアマネジャー、地域包括支援センターやサービス事業所と話し合いを行い、スムーズな在宅移行を目指している。

【取組③ 実務担当者会議への参加と認知症初期集中支援チームへの協力】

- 実務担当者会議では、圏域内の居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、介護サービス事業所、医療機関等の関係者が集まり、認知症施策の現状や課題を共有し、連携を図ることを目的に、事例を通じて支援方法を検討している。認知症疾患医療センターとしても、事例提供や運営協力で参加している。テーマを決めた勉強会も盛り込まれており、新たな知識を得たり、現状の支援を振り返る機会として活用されている。
- 圏域内の認知症初期集中支援チームに、チーム員として参加している。認知症疾患医療センター専門医がサポート医として協力している。介護サービスにつながらないケースは初期集中支援チームにつなぎ、自宅訪問などの支援を依頼している。困難事例についての検討会へ参加し、受診援助を含めた助言を行っている。

京都府立医科大学附属北部医療センター認知症疾患医療センターの取組

○保健所と協力し、「若年性認知症の方と家族の交流・相談会」を開催するとともに、研修会や事例検討会に協力し、地域連携の強化を図っている。

【担当圏域の基礎情報】（令和3年3月31日時点）

	京都府(京都市含む)	丹後医療圏
人口	2,522,613人	93,400人
高齢者人口(高齢化率)	740,393人(29.4%)	35,584人(38.1%)
市町村数	26	4
認知症疾患医療センター数	9	1

【認知症疾患医療センターの概要】（令和3年度実績）

類型	地域型
医療機関種別(設置主体)	一般病院(都道府県)
専門医療相談件数	1,731件
主な相談者(割合上位3位)	家族・介護者(47%)、本人(30%)、介護保険サービス事業所(12%)
鑑別診断件数	187件
診断時の認知症重症度(CDR)(割合上位3位)	未鑑別(68%)、認知症の疑い(19%)、軽度認知症(6%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

- ・年1回程度主催で開催（コロナ感染拡大防止のため書面報告）
- （③テーマ：認知症疾患医療センター事業報告と事業計画、事例紹介と意見交流）

<研修会の実施>

- ・若年性認知症支援研修会
- ・認知症本人・家族教室（コロナ感染拡大防止のため中止し、DVDを配布）

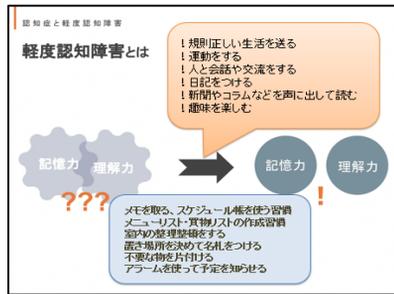
<その他（講師派遣・市町村支援等）>

- ・若年性認知症事例検討会（1回）
- ・丹後地域オレンジロードつなげ隊圏域連絡会議（1回）
- ・伊根町介護予防普及啓発事業（1回）
- ・伊根町地域ケア個別会議（1回）
- ・宮津市認知症初期集中支援チーム（検討会 書面報告1回）
- ・与謝野町認知症初期集中支援チーム（検討会1回、書面報告1回）
- ・京丹後市認知症初期集中支援チーム（検討会1回、書面報告1回）
- ・伊根町認知症初期集中支援チーム（検討会 コロナ感染拡大のため開催なし）

【取組① 認知症の本人・家族への支援】

- 平成26年度から保健所主催の「若年性認知症の方と家族の交流・相談会」（年2～3回開催）に協力し、対象者へ案内や当日の運営協力を行っている。
- 平成28年度から当院主催（保健所が協力）で、認知症の診断を受けた家族を対象に「認知症の家族の会」を年1回開催し本人や家族の交流を行ってきた。令和元年度から初期の認知症（軽度認知障害含む）の方を対象に本人・家族教室「認知症の理解を深めよう～本人・家族の勉強会」を年3回開催。医師・薬剤師・臨床心理士等の専門職から認知症の理解や生活に役立つ情報を提供し、交流を行っている。令和3年度はコロナ感染拡大防止のため中止し、代わりにDVDを作成し配布した。
- 本人や家族が認知症を理解し交流することで精神的不安を軽減し、必要なサービスや支援機関につながることで地域からの孤立防止となっている。

「認知症の理解を深めよう～本人・家族の勉強会」のDVDの内容の一部
（京都府作成のテキストを参考に作成）



こんなことも活用できます…

- ◆ 運動・脳トレをするなら
リハビリ特化型ディサービス、ディサービス
- ◆ 体調の相談、服薬相談なら
訪問看護、訪問リハビリ、居宅療養管理指導
- ◆ 歩行の補助、排泄・入浴など生活環境を整える
福祉用具のレンタル、購入、住宅改修など

⇒ 介護保険サービスの場合は、介護認定が必要！

【取組② 若年性認知症支援研修会の開催】

- 平成29年度から保健所と共催で「若年性認知症支援研修会」を開催している。対象は認知症カフェ従事者、初期集中支援チーム員、介護支援専門員、障害者生活支援センター、地域包括支援センター、行政等職員で、毎回多くの方が参加している。令和3年度は、オンライン開催で講演と、「居場所・就労支援の実際について～障害分野との連携を考える」というテーマで4力所から実践報告を行った。
- 若年性認知症と診断されても地域の支援体制が整っておらず関係機関やサービスにつながりにくい現状がある。この研修会により地域の関係者が若年性認知症の状況を理解し、支援体制を考える機会となっている。

北山病院認知症疾患医療センターの取組

○認知症カフェ、地域ケア会議、専門職対象のワークショップ、認知症初期集中支援チームに積極的に関与し、左京区を中心に地域連携ネットワークを構築。

【担当圏域の基礎情報】（令和3年3月31日時点）

	京都府(京都市含む)	京都・乙訓医療圏
人口	2,522,613人	1,551,848人
高齢者人口(高齢化率)	740,393人(29.4%)	437,639人(28.2%)
市町村数	26	4
認知症疾患医療センター数	9	3

【認知症疾患医療センターの概要】（令和3年実績）

類型	地域型
医療機関種別(設置主体)	精神科病院(医療法人)
専門医療相談件数	962件
主な相談者(割合上位3位)	家族・介護者(40%)、医療機関(15%)、その他(14%)
鑑別診断件数	113件
診断時の認知症重症度(CDR)(割合上位3位)	重度認知症(33%)、中等度認知症(27%)、軽度認知症(19%)

【認知症疾患医療センター事業の地域連携機能の概要】

<協議会の開催>

年に3回、保健医療や介護保険の関係者、認知症医療に関する有識者等から構成される認知症疾患医療連携協議会を開催し、地域の認知症に関する支援体制づくりに関する検討等を行っています。

<研修会・講師派遣等>

医療従事者を対象とした認知症対応力向上研修フォローアップ研修や病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修に担当医が出講しています。また、各職能団体等が主催する研修会にも専門職を講師として派遣しました。

<その他>

- ・担当医や相談員が、認知症初期集中支援チーム員会議に参加
- ・京都市認知症初期集中支援事務局チーム員業務連絡会に相談員が参加し、後方支援を行っている。
- ・地域ケア会議や認知症カフェへの参加
- ・若年性認知症本人交流会、レビー小体型認知症本人・家族交流会等に相談員が参加。

【取組①】 「私が紹介したい認知症にやさしい本 2021 at 北山病院 (京都市認知症疾患医療センター) 』

- 北山病院（京都市認知症疾患医療センター）では、世界アルツハイマー月間（9月）に合わせて、認知症を知るためにお勧めしたい書籍とその紹介文を職員から募集しました。応募のあったブックレビュー（書評）とともに、認知症に関係する書籍をロビーに展示しました。



【取組②】 KBS京都ラジオでの特別番組「かいごみらいラジオ」への協力】

- KBS京都ラジオスペシャルプログラム～かいごみらいラジオ！におけるトークセッション「認知症についての正しい理解」に、門川大作京都市長などと一緒に澤田院長が出演し、認知症に関する啓発活動を行いました。

